

富士山の雪代災害の3次元映像による監視

Three dimensional scanning observation of a slush avalanche at Mount Fuji

奥水 達司 [1]; 内山 高 [2]; 杉田 幹夫 [2]

Satoshi Koshimizu[1]; Takashi Uchiyama[2]; Mikio Sugita[2]

[1] 山梨県環科研・地球科学; [2] 山梨県環科研

[1] Yamanashi Inst. Environ. Sci.; [2] YIES

富士山麓における雪代（ゆきしろ）と呼ばれる土砂災害は、地盤の凍結・融解・融雪・降雨を仲立ちとして起こり、歴史的にみれば、しばしば大災害をもたらしてきた。しかも、その発生頻度においては富士山の火山活動に比べ、はるかに高いため、富士山麓地域における防災面からも雪代の研究は重要課題となる。

最近においては、例えば2004年12月5日未明に富士山の北～西斜面において雪代が発生し、その直後の12月を中心に、我々は現地調査を重ねた。この雪代に先行して1992年に富士山全周において雪代が発生しているが、その際に富士山の北西斜面において雪代現象が認められた地域は、今回2004年の発生地域と一部重なっている。このことから、雪代の発生がくり返される地域においては、将来における再度の発生に備え、3次元映像による雪代発生前後の表面地形を映像として互いに比較することができれば、雪代発生機構の検討や雪代現象に伴って移動・運搬される土砂量などの見積などを可能にし、雪代研究における重要な基礎資料としての役割を果たすことになる。このような背景から、我々は2004年に雪代の発生した地点周辺において、表層物質の移動を把握する目的で3次元映像による検討を進めてきたので、報告する。